

平成24年度 桑名市地域医療対策連絡協議会

平成25年3月25日（月）

【事務局（黒田）】 それでは、おそろいになりましたので、ただいまより平成24年度桑名市地域医療対策連絡協議会を開催させていただきます。

委員の皆様におかれましては、お忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

ここでお断りを申し上げますが、山中委員におかれましては、本日、所用のため欠席でございます。また、副市長におかれましては、この後、公務が入っております、ここで退席させていただきますが、3月31日付で桑名市を退職されますことから、副市長からご挨拶がございましたら、よろしく申し上げます。

【三浦委員】 副市長の三浦でございます。私、このたび、一身上の都合によりまして、市長のお許しをいただいて、副市長の職を辞することになりました。任期と申しましょうか、辞職のタイミングはこの月末になります。1年と8カ月という非常に限られた時間ではございましたけれども、医療、福祉、健康づくりをはじめとして幅広い分野でお仕事をさせていただきました。この会にも、私の記憶が確かならば、着任早々、23年の8月の開会のときに出席させていただいたことを、昨日のこのように覚えております。そこで決まった地域ケア研究会、この年の23年の秋でしたかね、第1回の会合でもお話をさせていただく機会を頂戴しましたし、何よりも今日、足立理事長、おみえですけれども、ちょうど1年前に桑名市民病院と山本総合病院の統合に立ち会うこともできまして、非常に貴重な経験をこの桑名でさせていただいたなというふうに感謝申し上げて、これも皆様のようなすばらしい方との出会いがあり、また、皆様の熱意がその形になったのではないかなというふうに今でも思っております。

今後、新病院建築に向けまして、2年後の27年4月のオープンに向けまして、準備作業というのは加速をしていくものと思います。また、ご案内のとおり、この新病院ができ上がりますと、この地域、桑名地域の医療提供体制というのは大きく変わってまいります。また、社会も同時に超高齢社会の到来ということですのですごいスピードで変わりつつあると。この2つの動きをうまく調整して、新時代に合わせたいい病院、いいシステムをつくっていくというのが、ここにいる地域医療のリーダーシップをとっていただいております。

責務かなというふうに思っております。ぜひともよりよいシステムづくりのために今しばらくご尽力いただければというふうにお願いを申し上げたいと思います。

結びになりますけれども、本日ご参加の皆様のみならずのご発展と本市のさらなる発展、また、本会のさらなる盛会を祈念申し上げまして、甚だ簡単ではございますが、私の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

【事務局（黒田）】 それでは、会議に移らせていただきます。

会議に入ります前に、資料の確認だけをさせていただきます。

お手元の資料の確認でございますけど、平成24年度桑名市地域医療対策連絡協議会次第、それと、資料1としまして桑名市総合医療センター基本設計図書の概要版、それと、資料2としまして桑名市地域医療再生講座（寄附講座）について、資料3としまして小児科医師を目指す研修資金貸与額の拡充、資料4としましてくわな健康・医療相談ダイヤル平成24年度利用実績（4月～2月分）、資料5としまして桑名市在宅医療及びケア研究会開催状況、資料6としまして平成25年度当初予算参考資料、1ページに救急医療対策事業費、2ページに各種団体補助金、3ページに寄附講座支援事業費、4ページに予防接種事業費、1ページ飛んで6ページに各種検診事業費、8ページに子ども医療費、そして、本日、一冊物でございますけど、冊子「子どもの救急対応ハンドブック」と、それと、最後に、席次表でございます。

ございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、本日の会議に入りたいと思います。議長の東会長に進行をよろしくお願い申し上げます。

【東議長】 皆さん、こんにちは。今日のご苦勞さまでございます。

それでは、早速、次第に従いまして会議を進めてまいりたいと思います。

まず、報告事項からでございます。1番の平成24年度、主な事業報告、①桑名市総合医療センター新病院の整備状況について、事務局、どうぞお願いします。

【事務局（黒田）】 議長さん、①から⑥まで、24年度事業ということで、通してさせていただこうかというふうに思っておりますが、よろしいでしょうか。

【東議長】 では、そのようにお願いします。

【事務局（黒田）】 ①桑名市総合医療センター新病院の整備状況につきましては、昨年の7月に策定しました新病院の基本構想、基本計画をもとに、先日、基本設計の作成を終えたところでございます。

お手元の資料1をお願いします。

最初のページでございますが、総合医療センター周辺と総合医療センターの内部のイメージ図でございます。こういったイメージのものができ上がってくるというふうに、イメージ図を提案していただいております。

それと、次のページでございます。

総合医療センターの配置図でございますが、新棟としまして、主に外来機能になりますF棟、そして主に入院機能を担いますG棟、それぞれの建物の1階、2階部分には駐車場が配置されまして、浸水対策が講じられています。

次のページをお願いします。

総合医療センター建物の断面図でございます。字が小さくて誠に申し訳ありませんが、上段がF棟4階建てとG棟9階建ての断面図でございます。この2つの建物は、3階部分で上空通路において接続をしております。下段は、従来からございますB棟7階建てと、新しくできますF棟の断面図で、この2棟につきましても、3階部分で接続をしております。

次に、資料2をお願いいたします。

②桑名市地域医療再生学講座（寄附講座）につきましては、この寄附講座は、大学の講座の設置に必要な資金を市と総合医療センターが共同で寄附することで、桑名地域の医療保健体制に関する研究、教育が行われるものでございます。昨年7月9日に、桑名市と総合医療センター、鈴鹿医療科学大学の三者で平成27年3月末までの協定を結んでおります。この講座によりまして、産婦人科医が、東医療センターの産婦人科で週3日間診療に入っております。

次に、資料3をお願いします。

③小児科医師を目指します研修資金貸与額の拡充につきましては、総合医療センターの初期研修医、後期研修医に、将来、小児科を目指す医師に対しまして、これまでの総合医療センターの制度の拡充分として、市が総合医療センターに補助する取り組みを今年の1月に開始しております。

次に、資料4をお願いいたします。

④健康・医療相談ダイヤル24につきましては、本年度の2月分まででございますけど、その利用実績をまとめたものでございます。1、相談件数でございますけど、1日当たりの相談件数は11.1件。昨年度の3月時点での件数ですけど、9.0件に比べますと、約

2件ほど増えてきております。2、相談対象者の年齢別でございますけど、乳児から小学生までで全体の約6割近くを占めておりまして、それに伴いまして、4、診療科別では、小児科における相談が約5割というふうになってきております。3、受付時間、5の内容別分類集計につきましては、この資料にお示ししましたとおりでございます。

次に、⑤「子どもの救急対応ハンドブック」につきましては、別物のカラー刷りの冊子、お手元にお配りしております。このハンドブックでございますが、子供の急な病気やけがに対しまして、慌てたり、どのように対応したらいいのかわからないといった不安を少しでも和らげるために、救急時の対応や処置について、市内の小児科医やNPOのご協力をいただき、昨年11月にまとめたものでございます。また、私どもとしましては、救急車や救急病院の適正利用への啓発になればとも考えております。

このハンドブックは、桑名市の小児科医師が作成しました資料をベースに三重県が作成した「子どもの救急対応マニュアル」も参考にしまして、発熱時のとき、引きつけのときなど、症状別の対応やホームケアのポイント等を掲載しております。現在、当市の赤ちゃん訪問事業や、1歳6カ月健診の際にお配りをしております。そして、ホームページでも公開しております。

次に、資料5をお願いします。

⑥桑名市在宅医療及びケア研究会の開催状況につきましては、医療、福祉、介護に携わる多職種の連携、情報の共有化と知識の向上を目的に立ち上げた研究会でございます。3月13日に、第6回目の研究会を開催したところでございます。研究会の内容も、各職種の紹介から事例検討を経て、前回は体験型を取り入れるなど、回を増すごとに工夫をしております。また、一般的な在宅医療分野だけでなく、口腔ケアなどのテーマも取り上げてきております。この結果、さまざまな職種からたくさんのご参加をいただいております。実際の業務に役立つといった内容から、今後に対する期待まで、前向きなご意見をいただいております。

第6回までの開催内容の状況につきましては、この資料にお示しさせていただきましたとおりでございます。私どもとしましては、研究会の一層の充実に取り組んでまいりたいというふうに考えております。

以上、平成24年度の主な事業についてのご報告でございます。よろしく申し上げます。

【東議長】 どうもありがとうございました。

1番から6番まで、ずっと概略をご説明いただきましたが、とりあえず、ここでは1番

の総合医療センターの整備状況について、まず、委員の皆さん、ご意見がございましたら、いかがでしょうか。

足立先生もおみえですし。どうぞ、先生。

【足立委員】 先日、桑名市の東医療センターの医師臨床研修制度に携わっておりますので、その会議に出席させていただきました。前回ぐらいから、西医療センターの医師臨床研修の委員長も同席されて、26年度採用のためのプログラムについて統一的なものをつくろうという動きがあつて、非常にいい取り組みだと思いました。27年の4月1日を目指してということですが、やはり人が提供するものでございますので、建物だけじゃなくて、人づくりの点で、今できること、早目にできることというのはこれからもどんどん進めてもらいたいと思います。各部門部門の話し合いの中で、27年4月1日からいろいろスタートするわけではなくて、もう人の点では、そのチームが27年4月1日にでき上がっているようなことが望ましいと思っております。

あと、新病院の400床規模になりますと、県内の病院のクラスから見ましても、政策医療を当然担っていただきたいということで、保健所の持つております災害医療対策の会議におきましても、当然、災害拠点病院を目指して手を挙げていただくべきだろうという声も非常に強くございますし、あと、新型インフルエンザの特別措置法もできて、来年ぐらいから、ぼつぼついろんな地域のシステム、組み立てをすることになりますので、感染症対策の第二種を持っていただくとか、あと、がんの拠点病院も、国のほうもちょっと最初はハードルが高いものですから、知事が指定するような連携推進病院。

ですから、政策医療の点の人づくり、看護師さんであるとか、薬剤師さんであるとか、いろんな研修がその指定のためには必要になってまいりますので、ぜひ、そういう人の育成の点でも27年の4.1までの間にできることから進めていただきたいと思って見ております。

以上です。

【東議長】 どうもありがとうございました。

足立先生、私ども医師会としましても、スタッフ等、それから、両病院の融合ということにはかなり皆さん、関心の高いところでありまして、今のところ、スタッフの充実という点では、いかがでしょうか。

【足立委員】 ありがとうございます。

スタッフにつきましては、ドクターを、あと、やはり10名ないし20名ぐらいの予定

で一応あちこちクルートをしておるところでございます。おそらく新しい病院ができるということで集まっていたけるのではないかというような、ある程度感触は持っているということで、三重大学を中心になっております。それと、今、先生のおっしゃいましたように、臨床研修医からとりあえず来年度から出させていただきます。合わせると10名の定員になりますので、同じプログラムでやっていこうということを考えておりますし、労働条件を西と南と東で統一しなければ、なかなか西、東の異動とか、そういうこともできませんので、そういうことにも取り組んでおります。

それから、現在は、西も東も全ての施設が耐震構造の病院がありませんので、地域医療支援病院とか、そういうのもとれない状況です。地域医療支援病院ですから、がんの診療連携も含めてそういったものを取得して、今、政策医療とおっしゃっていただきましたけど、参画していく予定です。

【東議長】 救急医療の面で、やはりこの地域がC P Aの患者さんの救命率というものがあまり芳しくないというところがございますし、それはいろんな理由があるんだろうと思うんですけど、やはりその地域の中核的な病院が今なかなか十分でないというようなことが大きな問題じゃないかなと思っておりまして、ぜひその辺の救急医療の面でも、スタッフの充実とともに、それぞれの医師のスキルアップといえますか、その辺を努めていただきたいと思っております。

そのほか、この問題に関しては、ありませんでしょうか。

整備がどんどん進んでいくんだろうと思うんですけど、1つ気がかりなのは、こういう今、東医療センターのところでこちらを壊してはこちらを整備してというようなことになっていくんだろうと思うんですけども、駐車場がどうしても一時的には非常に少なくなる、懸念されますので、その辺の回転といえますか、あの辺をぜひいろんな建設のチームの方とも連携していただいて、今現在の東医療センターの機能があまりにも落ち過ぎないようにということをよろしくお願ひしたいと思っております。

この問題、よろしいでしょうか。

【事務局（加藤）】 保健福祉部理事の加藤です。

今、会長さんから駐車場の問題等をいただいたんですけども、その点につきましては、今、桑名市と、それから桑名地方独立行政法人とワーキングチームを立ち上げまして、いろいろと問題解決に取り組んでおりますので、いろんな形でまた検討していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

【東議長】 わかりました。

それでは、2番の桑名地域医療再生学講座、寄附講座についてご報告がありましたけれども、いかがでしょうか。

現在、週に3日、東医療センターのほうに、今、産婦人科の機能が、西の先生も東のほうに行かれて、そちらがメインになってやってみえるので、東のほうに先生が週3日、周産期に強い先生が見えていただいているわけですが、このことで実績といたしますか、何かそういうところで事務局のほうに入っていることをお願いします。

【事務局（黒田）】 事務局の黒田でございます。東医療センターにこの寄附講座を利用されて来ていただいている先生は石川先生という方でございます。その先生から一応3月末にまとめて報告というのはいいただきますが、一応途中経過としまして、いろいろこのあたりの地域の産婦人科の研究をされた上で、どういったふうになれば、いわば患者さんを呼び込むというか、来ていただくことができるかといった課題等を解決していただいたりとか、婦人科にかかわる講演会に出られて、自分なりに勉強されておることをフィードバックされてきておられるようなことを伺ってはおります。あと、具体的なことは4月に入ってからかなというふうに思っていますけど。

【東議長】 わかりました。

どなたか、よろしいでしょうか。

それでは、次の3番に行きたいと思いますが、小児科の医師を目指す研修資金貸与額の拡充について、これはこの資料の3にもありますように、独法としてもその辺の取り組みをしていただいている上に、市として11万円を追加で負担するというような制度でございます。小児科の先生を目指して、今度の医療センターで将来働いていただけるということになると、経済的には大変有利なといいますか、そういった制度でありますけれども、これが今年の1月1日からスタートしているということなんですけど、今現在、実績はどうなんでしょう。

【事務局（黒田）】 事務局の黒田でございます。

残念ながら、今のところこの制度を利用して応募されている先生はおられません。

【東議長】 足立先生。

【足立委員】 独法としては、制度を先に作りましたが、それは全診療科でありまして、現在のところ、精神科の先生がお一人これに乗っておられます。小児科についてもこれを期待していますけど、方法的なことでもかなり頑張らないとなかなか認知されない可能性は

あると思っています。

【東議長】 今から10年ぐらいしますと、例えば三重大大学の医学部は定員が125名、地域枠も拡充して、あと10年もすればかなり充足してくるんでしょうけれども、全国的にはまだある意味、分捕り合戦みたいなところがございますので、いろんなところがいろんな方法を講じているということだろうと思いますし、最近、研修医の給与というのものもある程度上がっていますので、なかなかお金では動かないということがひょっとしたらあるのかもしれませんが、もう少し見てみないとまだわからないですね。

ただ、病院も新しくなる、そして、スタッフも充実するということになれば、おのずとこういうような問題は、もっともっと応募者があるべきだと思いますですね。

最近の医学部の学生さんも、かなりの人、半分ぐらいですか、長坂先生、半分近いですね、奨学金を利用されているのは。

【長坂委員】 44%ぐらいが利用しています。

【東議長】 従来では考えられないぐらい、医学部の学生さんは、奨学金と申しますか、そういう制度を利用してやってこられていますので、いろんな意味でこういうようなものにはある程度なじみがあると言ったらおかしいですけど、積極的に来られてもいいのかなとは思っておりますけれども、今後の推移を期待したいと思っております。

ほか、ございませんですか。よろしいでしょうか。

続きまして、4番の問題です。

健康・医療相談ダイヤル24であります。1日当たり11.1件というような相談件数で、しかも、どうも様子を見てみますと、かなり時間帯としても準夜から深夜に至るまでしっかりと相談があるようですけれども。

いかがでしょうか。

事務局のほうには、これについて市民の方からの反応と申しますか、評価というのは何か声は届いていますか。

【事務局（黒田）】 事務局の黒田でございます。

これについての評価と申しますか、そういった声はいただいております。

ただ、自分のお子様がいろいろな病気とかをされたときに、どういった病院へかからせればいいのかとかの問い合わせがございまして、お話を聞いておる際に、これから先、相談事としてはこういうダイヤル制度もございましてというご紹介はさせていただいてもらっておるようございまして、具体的にこのあたりの評価というのは、先ほども言いましたよ

うに、いただいているところが現状でございます。

【東議長】 その電話は、一応東京と大阪へ行っているんですか。大阪へも行っているんですね。

【事務局（黒田）】 桑名の場合は、大阪も東京のともにです。

【東議長】 行っているんですね。1つ、要は、その電話を受けた方というのは、看護師さんであったりドクターであったりするわけですけれども、桑名の今の事情はご存じない、把握していない方が対応しているんですね。ですから、今どういうように、どこが書いていますよとかという今の桑名の現状を理解していない方が対応しているので、その点、今どこどこへ行ってくださいという対応はできないという、その辺ちょっと問題はあるんですけれども、地域にもう少し密着したような相談とか対応ができれば一番いいんだろうと思うんですけど、それをやろうと思うと、また、いろいろ厄介なので。

【事務局（黒田）】 事務局の黒田でございますが、体の調子が悪くなって、どこの病院があいておるかというのは、三重県がやっております医療ネットというものがございます。そちらのほうへパソコンとか電話等で問い合わせはできるんですけど、これはほんとうに自分のお子さんとか本人が病気になって、こういう症状なんだけど、どうすればいいんだろうと、ほんとうに具体的なご相談に電話させていただくというダイヤルでございますので。

【東議長】 そうなんですけど、実際は、ほんとうはその場で、桑名の一応の事情をわかっていないとしっかりした対応はできないんですよ。小児科のほうにはダイヤル#8000というようなものがあって、そういう方も必ずしも桑名の人ばかりではないので、現在やっている、さっきの医療ネットみえというようなものを両方、患者さん側も使い分けていかないといけないというようなことにはなるんですけれども。

結局、従来ならば、ご家族の方が、お母さんなりが1人で大変だというふうで悩んでいるときに、大家族であればいろんな方がちょっとしたアドバイスができるところが、それができないと、1人お母さんが悩むというケースには、どなたかこういうように相談に乗ってもらえるということでは役立っているんだろうと思うんですけれども。

いかがでしょうか。

どうぞ長坂先生。

【長坂委員】 ちょっと聞きたいんですけど、医療ネットみえと健康相談・医療相談のこの2つがあって、かなり健康・医療相談というのをほかの市のほうでもされていまして、実際、どっちが先が多いですかね。かかりたい医療機関を探してみて、ないのでここへ電

話して、待てるかどうかを尋ねるといのが多いのか、健康・医療相談ダイヤルが先で、じゃ、どこかにかかるということで、医療ネットの回線を使うのか。ちょっと微妙な質問ですけど、もし分かれば教えてください。

【事務局（黒田）】 事務局の黒田でございます。

先ほどのお手元の資料4の5の一番下の表なんですけど、この中の上から4行目、休日・夜間の医療機関の案内、ここで574件という件数の方が医療機関の案内を受けております。ですから、これはこちらのほうが多いのかなという結論になるのかなというふうに思いますが。

【東議長】 なかなかわかりにくい問題だろうと思うんですけど、一応この5によれば、気になる身体症状に関する相談というのが37%あるわけですね。何となく、いろいろ相談、医者には聞きづらいとか、そういうようなことで相談してみえる方もいるのかもしれないですね。これは、先ほど長坂先生もお話がありましたけど、桑名だけではなくて、津とか松阪とかもやってみえますよね。相談の件数、ここは1日当たり11件ですけども、ほかはどうですか。

【事務局（黒田）】 事務局ですけど、数字的なものは今持ち合わせてございませんですけど、以前に他市にお伺いしたときに、桑名市より多い件数の案内を受けられておるといふふうに伺ってはおります。

【東議長】 桑名のほうが少ない。

【事務局（黒田）】 以前にお伺いした松阪市でございますが、松阪市は桑名市より多かったと思います。

【東議長】 松阪は、どちらかという輪番制をしっかりとって、比較的大きな3病院があるんですけど。

【事務局（加藤）】 松阪のほうが早かったです。

【東議長】 早い分だけ多いのかもしれませんが。

【事務局（黒田）】 そうかもしれませんね。

【事務局（加藤）】 松阪は広域消防の中でやっておりますので。

【東議長】 先生、どうぞ。

【足立委員】 松阪の話が出ましたが、ほかの医療圏というか、場所と比べて桑名で特別やっぱり問題点が多いとか、相談件数が多いとか、そういう突出している状況があれば教えてください。

【事務局（黒田）】 事務局の黒田でございます。

足立委員から言われます相談事でございますけど、他市もお伺いすると、やはりお子さん関係の相談事が非常に多いということはわかっております。

【東議長】 なかなか子育て支援の問題も絡んでくるんでしょうかね。

そういうことですが、よろしいでしょうか。

次、行かせていただき、これとも関係が深いんですけれども、「子どもの救急対応ハンドブック」、これをつくっていただきまして、医師会の小児科の先生もこれにはかなり参画してつくられたというように聞いております。僕が聞いている範囲では、小児科は、立派なものができたと言っていますけれども、何か必ずしもお母さん方の評価はそうでもないのかもしれないけれども、これは先ほど言いましたように、全部のお宅に配られたわけではないということですね。

【事務局（黒田）】 全部のお宅へ配ってはいけません。ただ、私どもの事業で赤ちゃん訪問事業というのがございます。そのときにお渡しするのと、あと、メディアライヴのほうにお越しいただいて1歳半の健診をしております。そこへお越しになったお母さん方にお渡ししたりしていただいております。

以上でございます。

【東議長】 赤ちゃん訪問は、なかなかしっかりやっていたというように聞いているんですけど、訪問率は今何%ぐらいですか。

【事務局（加藤）】 96%を超えています。それとか、すすく教室なんかでも来てもらえない人を見ると、一回も面談できない人は、最終的にもう10人を切るような数字になっておると思います。

【東議長】 そうすると、ほとんど100%近い、100%よりちょっと切るぐらいの赤ちゃんのところにはこれが行っているということになるわけですね。そういうことになるんですね。

【事務局（加藤）】 ちょっと補足説明しますと、これができましたのが今年の11月の末にできております。そのときから配付しておりますので、それで、すすく教室を保健センターで3カ月の子供さんを対象にしているんですけれども、そのときにお渡しさせていただくと、それから、赤ちゃん訪問は、大体2カ月ぐらいの方を対象にしておりますので、ですから、11月から、もうそのときに1カ月、2カ月になっている子につきましては、赤ちゃん訪問のほうでも対応させていただいております。

それから、万が一、もしこれをなくしたという方もみえますので、保健センターの実施いたします1歳6カ月健診とか、そういったところでもこれを紹介させていただいておりまして、もし欲しいと言われる方でしたら、これをお渡しさせていただいております。

【東議長】 わかりました。

福本委員、これを見られて、いかがでしょうか。お母さんの立場から。

【福本委員】 ありがとうございます。

子供たちの相談というのは非常に多いというのは、ほんとうに、私は、ケアマネの会ですが、看護のほうもやっているのであれなんです、看護師さんたちの一番の問題が、子供たちの電話相談とか、ぱっと来て、大したことはないのに時間がいっぱい要るとか、そういうことが非常に多いというのは聞いておりますので、何かの対応としては必要なと思います。

それと、多分、東医療センターさんに小児科の入院ができるようになったというふうにお聞きしているんですが、そのあたり非常に対処してもらっているようでありがたいんですけど、どこまで皆様にわかっているのかなど。ちょっとこの議題ではないかもしれませんが、そこら辺はこういう広報の一環としてというのはどんなものなんでしょうか。

【足立委員】 足立です。小児科は今、女医さんがお二人で、お一人は子育て中で、なかなか24時間対応ができないという状況で、ウイークデーの一定の時間帯に入院が可能という形でしていると思います。必ず開業医の先生からのご紹介をいただいて、それで、入院の段取りをするという形で動いていると思います。

【東議長】 たしか私どもが医師会として聞いておりますのは、月曜日から金曜日までというふうに聞いております。その午前中、午前中に紹介していただいた患者さんについて入院をさせていただいているというようなことを聞いております。

そういう女医さんで、1人は子育て中ということで、その人たちに倒れてもらっては元も子もないもので、我々もスタートとしてはあまり無理、負担をかけないように、初めは助走から入っていただいているというようなことですが、ほんとうにしっかりやってもらっているというふうにご感謝しております。

これは去年の11月から配られ始めたわけですね。小児科が兵庫県のほうでも大変になってというときに、お母さん方が頑張っているんなこういうようなものをつくられたり、いろんなことをしたというふうに聞いておりますので。なかなか小さい子供さんが何か調

子が悪くなると、それどころじゃないとは思いますが、私もすぐ医者へ行けと言った経験があるんですが、あまりにも手軽なコンビニ受診というものがなくなって、なるべくそういう小児科の先生の疲弊がない、ある程度開業医は疲弊するのはしようがないんじゃないかなと思っておるんですが、勤務医の先生にあまり負担がかからないようにはなってもらえればと思っております。

それでは、最後に、桑名市在宅医療及びケア研究会開催状況についてですが、これは、今まで6回行われたわけですが、毎回100人近い方が参加されておまして、ある意味、私も何度か参加いたしましたけれども、今までこういう介護の現場でそれぞれ多職種の方の顔が見えないという問題が、最近ではかなり解消されてきているのではないかなど。少なくとも、みんな顔は知っているし、それぞれの職種がどんなことをどんな仕事をしているのかということ、そうすると、我々は、こういう問題が起こったときはどなたに相談、どの職種の人に相談すればいいかということはもう大体わかってきたのではないかなと思っております、次は、その次の第二段階に進んでいこうというようになったと聞いておりますが、これについて何かご意見はありますでしょうか。

前回、第6回は口腔ケアについて歯科の先生からのご報告もあったんですけど、服部先生、何かございますでしょうか。

【服部委員】 歯科のほう、口腔ケアですけど、長坂先生ともちょっとお話ししたんですけど、病院に入院中にはわりあい近くの先生だったりとか、その病院と提携しておる先生が行かれることが多いんですけど、その後、退院されたときに、歯科医師会としては連絡をいただいたら、その近隣の先生を派遣するシステムというのはできておりますので、歯科衛生士が訪問するといった口腔ケアができないところは、そういう人と契約を結んで、出向させるようなシステムというのはできておるんですけど、やっぱり機能していないということで、今後、会として、病院から退院する人に我々のほうからアプローチをして、向こうから連絡を待つのではなくて、そういう形でケアできていければいいのかなというようなことは考えております。

もちろん、他業種との連携というか、やっぱりその分、歯科医師、わりあい診療所にこもってやっておるものですから、どのようなことが行われておるかというのはほんとうにわかっていないことが多いものですから、こういう事業に参加させていただいて、会の中でも他業種の仕事ということを少しずつ理解していくように努力していきたいなというふうには思っております。

【東議長】 どうもありがとうございました。

そのほか、何かございますでしょうか。

今年の1月に、三重県のほうで地域包括ケアに関連してリーダー研修というのがございまして、行政サイドとしても、それぞれのこれからの在宅医療に関して地域でリーダーをたくさん養成して、そして、在宅医療に取り組んでほしいというようなことが来ております。将来的には、この在宅医療ケア研究会も、もうある程度顔が見えた。やっていることもわかった。あとは、いかにチームといいますか、しっかりとそういう在宅医療に向けてリーダーを養成して取り組んでいかないといけないというようなことになってきていると思うんですけども、これもなかなか難しい問題があるとは思っていますけど、福本さんも出ていただいていたけれども、いかがでしょうか、今までのこの研究会、6回まで行われましたが。

【福本委員】 参加者という立場からですが、非常に顔の見える関係ができて、サービスを使う上ではほんとうに助かって、いいなということと、お医者さんたちの敷居が高い高いというようなのがいつも出るんですが、この会に関しては、ほんとうに先生方も一緒になってお話をしていただけなので、何か、イメージ、変わったねというふうな、そういうような話も聞こえております。

内容としてどうやっていくかということころまではちょっとわからないのですが、医療とか地域ケアにかかわる人たちの基本的なとか、基礎的な知識を少しレベルアップできるような方向も必要かなと思いますし、あと、もう一つは、これだけの顔が集まるので、地域がほんとうに困っているという地域の問題を出す場になってもいいのかなというふうに思います。

以上です。

【東議長】 どうもありがとうございました。

在宅医療、これからどうしても桑名としてもどの地域としても取り組んでいかない大きな問題なので、我々医師会も、これには県医師会、日医、全部がかなりのパワーを割いてやっているんですね。そこで、一番やっぱり問題になってくるのは、これから50万人の方が今までよりも多く亡くなってくる多死社会になると。在宅で亡くなられる人を診ていこうということになるわけですが、そうすると、1人の在宅医だけではもう絶対無理なんですね。24時間対応はできない。休みもどうしてもとらないといけないということもあまして、グループ化ということがどうしても必要になってきまして、それで、例えば鈴

鹿、四日市というところはいち早く取り組んでおるんですけど、各、ここでいえば、地域包括の地域割をして、その医師、それから、そういういろんな在宅に関係する、あるいは介護に関係するようところが1つのグループとして集まってやっついこうと、その中の患者さんはなるべくそういう中でやっついこうというような取り組みが行われています。

四日市とか鈴鹿というのは、かなり地域が広いんですね。地域が広いから、意外と広いとやっついけるのかなと思うんですけど、桑名の場合は、比較的小さいところにたくさんの方が集まっているので、地域分けも難しいのかなと思ったり、グループにならないとやっついけないということと、それから、訪問看護ステーションの24時間対応、福本さんのところもやっついけていますけれども、24時間対応の訪問看護というものが無いことには在宅医療というのはなかなか難しいというように考えています。ぜひ、そちらも充実させていかないといけないなど。そして、なるべく医師とか、そういう人たちがグループをつくりながら患者さんの24時間対応をやりたいと医師会は考えているんですけども、そういう中で、リーダーというような人をうまくそれぞれの職種から養成していければと考えておりますので、また、いろいろご協力をお願いしたいと思います。

長坂先生もいろいろアドバイスをお願いしたいと思いますのですが、どうですか。

【長坂委員】 今、東先生が言われましたように、四日市と鈴鹿は地域包括ごとにブロックをつくってやっておると。桑名はどうかと言われたときに、私も全く同意見で、最初、三浦副市長が来られたときに、コンパクトな市であると。私も、地域包括ごとにとというのも四日市のときに組み立てましたので、ここでも考えてみたんですけど、どうもイメージが湧かないんです。これで研究会をやったら、ぱっと集まるわけですね。こういうようなところでもさっと集まってくると。だから、顔の見える関係はつくれると。

じゃ、何をやるかということで、ケアマネジャーさんと一種の連絡表、あれをやっぱり残すのが、次のステップだと思う。このあいだも、歯科医の伊藤先生と歯科衛生士さんの研究会に私もいたんですけど、やっぱり、プロってすごいんだなど。四日市のときも同じ感覚を持ちましたけど、そういう感覚を持ちました。それを1時間半ですから、ものすごいタイトなんですね。だから、おそらく介護の方とか、在宅系の人はずっと詳しく知りたかったらうなとか。だから、次のステップとして、何かそういう声があって言う場合があって、そのぐらいの塊になって、そういうほんとうに知りたい人向けのことができれば。これは目次みたいなもので、インデックスみたいなもので、その上でプラスアルファで、次に、知りたいと介護の人らが思っているかどうかとか、そういうような反応がちょっと

知りたいなど。そういうふうにそれぞれの団体がやるから、お薬に関して介護福祉士が知っておくべきこととか、そういうので四日市のほうはものすごく人気でしたもんね。だから、やっぱりそれぞれが必要としておる人の立場に立ってプログラムを組んでいくというか、そういう時期に来ておるような気がします。

あとは、やっぱり家族とか本人に対する安心感の提供、これは退院時カンファレンスというのがありますが、皆さんが忙しい中で一堂に会するという事は難しいと言えれば難しい。しかし、在宅の主治医なり在宅の歯科医師なりが、日を変えて、病院に今度、名刺を持って挨拶に行き、帰ったら、私が担当ですからといってちょっと顔を見せるだけでも随分とイメージが違ふと思うんですよ。だから、退院時ケアカンファレンスにできるだけ、病院というのは本人とか家族を交えての退院時カンファレンスですけど、ものすごい安心感があるんですよ。そこへ行けなかったけど、今度行ったら私ですからねというふうに。

やっぱりそういうことは本当はケアマネジャーさんが家族の代わりになってやるべきでしょうが、どうしても三重県のケアマネジャーさんの基礎資格は、福祉系が比率が高いものですから医療のことがわかりにくいので、ケアマネジャーさんがなかなか連絡がとれないというのが三重県の実情だと思うんです。それで、つながり度といいますのは、訪問看護ステーションは介護面で指定されておって、なおかつ両方ありますので、その辺がうまく、どういうふうに桑名では役割分担していくかなど。次はそういうような時期に来ておるんじゃないかなというふうに思います。

【東議長】 いろいろ問題がありまして、その退院時カンファレンス、実際、桑名ではほんとうに少ないですね。ただ、今なかなか勤務医の先生も、統合のことでかなり本来の仕事以外のことでも忙しいんだろうと思うんですけど、でも、これはやっていけないといけない、在宅医療としてはやっていけないといけないことなので、各病院のMSWの方にもしっかりと対応していただかないといけないなと思っております。

いろいろ問題が多いんですけど、将来的に地域医療の中では救急医療と在宅医療というのは非常に重要な問題になってくると思いますので、この問題もしっかりと取り組んでいけないといけないと思っておりますが。

平成24年事業報告ということ全体を通して何かございますでしょうか。それぞれのことでよろしいんですけれども。よろしいでしょうか。

では、続きまして、(2)の平成25年度主な事業概要について、事務局お願いします。

【事務局（黒田）】 事務局の黒田でございます。

(2) の平成25年度の主な事業概要についてご報告申し上げます。

資料6としてお配りしました平成25年度当初予算参考資料をごらんください。

これは保健福祉部の主な事業について抜粋したものでございます。表紙をめくっていただきまして、1ページをお願いしたいというふうに思います。

事業の名称でございますけど、救急医療対策事業費につきましては、医師会の皆様にご協力をいただきまして、一次救急医療体制の運営や、救急医療事務業務とか、歯科医師会さんにご協力いただきまして、年末年始歯科診療業務のほか、先ほど今年度の事業報告をさせていただきました健康・医療相談ダイヤルなどの事業でございます。所属でございますけど、これは地域医療対策課、私どもの課と、健康づくり課の事業でございます。

次に、2ページをお願いします。

事業の名称でございますけど、これは各種団体補助金でございます。先ほど事業報告しました小児科を目指す医師に対しまして、総合医療センターの制度に上乘せする市からの補助金、それと、看護専門学校健康推進委員への補助金でございます。所属でございますけど、私どもの課、地域医療対策課と、健康づくり課で事業としてやっております。

次に、3ページをお願いします。

寄附講座支援事業費につきましては、寄附講座の設置期間でございますけど、これ、平成24年7月9日から平成27年3月31日までとしておりますことから、平成25年度につきましては必要分を計上しております。所属でございますけど、これも、私どもの課、地域医療対策課の事業でございます。

次に、4ページでございます。

予防接種事業費につきましては、今年度も医師会の皆様にご協力をいただきまして、各種予防接種事業を進めてまいります。

次の、5ページでございますけど、これが対象となります予防接種の一覧表でございます。それを添付させていただきました。所属でございますけど、健康づくり課の事業でございます。

次に、6ページをお願いします。

各種検診事業費につきましても、予防接種と同様、医師会さんの皆さんにご協力をいただきまして、本年度と同様に事業を進めてまいります。

次の7ページでございますけど、同じように対象となります検診の一覧表を添付しております。所属でございますけど、健康づくり課の事業でございます。

次に、8ページをお願いします。

子供の医療費につきましては、昨年9月に旧乳幼児医療費助成制度から子ども医療費助成制度に変わりました。そして、通院分の医療費助成が小学校卒業までに拡大されたことに伴いまして、25年度では、昨年度の当初の時点から助成件数を拡大した計画となっております。所属についてでございますけど、保険年金課の事業でございます。

次のページ、9ページでございますけど、これが、子ども医療費助成の事業実績でございます。

以上、平成25年度の主な事業概要についてのご報告でございます。

【東議長】 事業の概要についてご説明をいただきました。

いかがでしょうか。

【服部委員】 AEDの設置ですけど、以前、市の事業に協力するという事で会員歯科医院のところに全てAEDを貸与して、環境を整えるということをやらせていただきまして、自分のところの診療に関係ないところで1件事例がございまして、救命に成功したということで社会復帰もされております。

それで、新たに平成22年度事業として行ったわけでございますけど、単独事業で行いましたけど、その後の会員の開院に際しましては、全て貸与しております。ですので、会員においては100%持っているという形をしておりまして、地域に貸し出ししているかどうかというような内容、どのぐらいの率で貸し出ししているかどうかという率については、調査しておりませんのでわかりません。ですけれども、そういったような事例がございました。

そして、毎年ちょっと言わせていただきますけど、歯周病検診なんですけど、来年度予算が21万7,000円ということで、これは、私、木曾岬町でも同じようなことをやっておりますけど、木曾岬町の予算よりも少ない。人口割に言えば、多分二十何分の1である木曾岬町のほうが多いんです。この21万7,000円ですけど、四日市市の場合は500万円、津市の場合は200万円の予算が立ててありますので、しかも、対象としまして、40歳、45歳、50歳、55歳、60歳ということで5つに分かれておるといって、5歳置きに4万円の予算なのかなと。それで頭出しという形にしかなくてないのではないかなということを感じておりますので、この辺も、四日市市並み、津市並みとは申しませんが、もう少し事業の拡大をしていただけたらというようなことは歯科医師会として思っております。ご検討いただければと思っております。

【事務局（黒田）】 事務局の黒田でございます。

こんなことを言って申しわけないですけど、私どもの課でございませんので、その担当する部局のほうへ、こういうお話があったということをお伝えさせていただきますのでよろしくをお願いします。

【東議長】 四日市と比べると、確かにあまりにも差が激し過ぎますね。認知症にしても、これからどんどん増えてくるわけですけど、歯が丈夫だということは、物をかむということがいかに僕らの脳の活性を保つかということに役立つみたいですので、やっぱり人間、食べて何ぼなので、この入り口の健康ということを考えていかないといけないんじゃないでしょうか。よろしくお願いいたします。

ほか、何かございますでしょうか。先生、どうぞ。

【足立委員】 1ページ目のダイヤル委託料が約1,100万円で、件数3,500件で割り算すると約3,000円ぐらいですね。委託料というのは人口別で契約されているんですね。であれば、もっと周知して、利用件数を増やさないとちょっと割高な感じが今しているわけなんです。

【事務局（黒田）】 事務局の黒田でございます。

これは契約する際に、桑名市の人口別で委託料を計算しております。それで、市民に啓発するというお話なんですけど、これは当初、ダイヤルのほうに申し込まれておる自治体が数少ないということで、こういう情報を外に出すと、失礼な話、市外の方がこの電話を使いさえすれば同じように相談事業として受けていただくことができるということもあって、あまり公にはされてこなかったというのが事実でございます。

【事務局（加藤）】 理事の加藤です。

追加では、この啓発の関係でございますけれども、今月、広報くわな3月1日号でも、医療特集を組みまして、救急相談ダイヤルのほうも紹介をさせていただいているところでございます。そして、広報のほうには、毎月毎月こういったことも案内をさせていただいておりますけれども、なかなか月10件とか、10件ちょっと切るのが現状ですけれども、あらゆる形でマスコミからも啓発に努めてまいります。

【東議長】 各診療所には置いてもらってあるんですね。カードがありますね。

【事務局（黒田）】 事務局の黒田でございます。

今お配りさせていただくんですけど、クリニックさんとか診療所のほうには、こういったような名刺サイズの案内するようなカードを今、置かせていただいておりますので。

【東議長】 当初、確かにほかの市の方がというような懸念もあったようではございますけれども、もう、それ、何件で、市としてどれだけ来ても契約しているんですもんね、お幾らということ。だから、なるべく広報でもう回してもいい時期じゃないかなと思うんですが。

【事務局（黒田）】 県で一括でやっていただくとありがたいですけどね。

【東議長】 それと、やっぱり本来は、NPOとかそういうようなことでもあるんだろうと思うんですけど、地域で、いろんな子育てに関して、ちょっとした病気とか、そういうようなのに気軽に相談に乗ってくれるような集まりというか、お母さん方の集まりみたいなのができて、そういうことでやると地域の中もよく見えて、対応もきめ細かな対応ができるということもあるのかなと思っています。どうしてもこういうのは、僕は電話したことはないですけど、紋切り型にならざるを得ないようなことはあるんじゃないかと思うんですよ。そういう動きもあるといいのかなとは思いますが。

【事務局（加藤）】 今会長さんがおっしゃっていただいたように、やはり子育て支援も事業をいろいろやっておりますので、そこでもPRできるように私どものほうから進めて努力させていただきます。よろしくをお願いします。

【東議長】 そのほか何かございますでしょうか。

【長坂委員】 この場でお伺いしたらいいのかわかりませんが、東日本大震災で慢性疾患の治療継続ということでお薬手帳がものすごく活躍して、桑名市さんからの委託というか、要請で、お薬手帳のカバーに防災情報を入れて配布したらどうかというようなお話があったようにお聞きしたんですが、その後どうなったかなと思って。

【伊藤委員】 印刷会社のほうでちょっと遅れがありました、とりあえず完成しました。もう間もなく配付できるように準備を進めておりますのでよろしくをお願いします。

【長坂委員】 大変いい取り組みですので、75歳以上と言わずにお住まいの市町村の防災情報が先駆的な事例となってもらいたいと思います。ありがとうございました。

【久保委員】 薬剤師会としては、この災害手帳とかお薬手帳、あれを手本にいろいろと作成して、薬剤師会の公益事業としてやりたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

【東議長】 確かにあのお薬手帳に、もう少しそういう防災のことも入ると確かにいいんじゃないかなと思います。

ほかにございませんでしょうか。全体を通してでも結構でございますが。

【福本委員】 今、地域包括支援センターさんは、地域の人たち、民生委員さんとかと

連携してくださっているんですけども、そういう中に地域に住んでおられる先生も見えられていて、そういう先生だけでもいいので、何か自宅でみとるとか、そういうような本場に地域の人たちのところで話をしてくださってもらえる機会があると、非常に在宅でみとるということに対してはみなさんすごく興味がおありなので、何かそういうのができるといいなと今ちょっと思っているんですけど。

【東議長】 確かに今、医療とか、あるいは、行政、介護の方の中では、在宅医療、最期のみとりをどこでするかというような話がよく出ているという状況になっていますけど、一般の市民の方にとっては、まだそれほど周知されているとは思えないんですね。

医師会も今のことにも関連してなんですが、この秋に医師会としての医療講演会を予定しております、それは在宅医療について、ここ二、三十年の間にこういう状態になりますよと、そのときには、病院が体制を立てていますよというような話を一般市民向けの方にやる事業を考えております、そういうようなのも1つの、今お話しされたこともほんとうに身近に、ほんとうに顔と顔を、膝と膝を突き合わせてできる、本来はそういう話がいいんだろうと思うんですけど、そういうものをあわせて考えておりますので、ぜひ参加したいと思います。

【服部委員】 長坂所長さんに聞きたいんですけども、四日市でこの前、結構、成功された、こっちに来られたときに言われましたよね。成功例なんか非常にいいかなと思っておりますが、桑名は狭くて、僕らも福本さんといつも話し合っているんですけど、どうすれば我々が入り込めるのかとか、それ以上に進めないんですよ、なかなか。

例えばこのケア研究会がありますよね、第6回がありました。その先の、会長が言われたように、先を見たときに顔は見えただけですけど、その後例えば具体的にどうすればいいか、さっき福本さんが言われたように、包括支援センターの地域ごとでやるとか、そういうような例えば先を、目標のところを出して行って、それに向かうんだということを、もしいい例があれば教えてください。

【長坂委員】 ありがとうございます。平成25年度の厚生労働省の予算から、在宅医療については、行政は市町村主体ではっきりうたわれました。私も四日市市へ行っておるときには、県の保健所の中で市の職員でしたので、市役所の中でいろんなところでいろんなことが情報が入って、四日市はできるという確信がありました。もちろんそれぞれの特色のある中で強みと弱みをざーっと調べ上げて、強みをどう組み合わせたらみんながついてくるだろうかという、そこまで調べてから決めますので、桑名の場合もいいなと思う

のは、顔の見える関係をつくれたことと、あと、市役所の中に地域医療対策課という課があって、病院の再編統合で、単なる病院の再編統合だけじゃなくて、地域の医療体制、それと福祉や介護との連携のことまでじっくりと市の職員で考えていますので、だから、やっぱりそういう情報を市役所のほうにいろいろとふだんにつき合いの中で分かってくる情報とかがありまして、両方が見えますので、いいところ、悪いところ、その中でどういうシステムがいいかというのは、やっぱり市役所中心でみんながああだこうだ、その中から最大公約数でつくっていくべきものであって、うまくいかないときは、市役所のせいじゃなくて、みんなの責任でまた修正していくと。

だから、僕は、市役所が真ん中におりますので、市役所を中心にみんなが情報を入れて、それで、みんなが責任をとり合いながらシステムをつくっていくというのが正しい姿だと思います。

【東議長】 どうもありがとうございました。

いずれにしても、来たる2030年、そのぐらいになったら、市というか地域の中でいっぱい亡くなる人が出てくるわけですね。それまでに入院する、その人たちが亡くなるためのベッドがないわけですから、在宅で亡くなる、亡くなっていただくわけなんです。在宅医療、私も最近ここ1カ月の間に2名の方を在宅でみとりましたけれども、正直、もうこの1週間だとかいうと、どこも出かけられないとか、いろいろと大変なこともあるんですけど、それでも出かけていましたけど。なかなか在宅で亡くなる、みとるというのは、ご家族も大変満足していただけるし、すばらしい。

これは今こういうようになりましたよじゃなくて、30年前、あるいは50年前はみんなそうだった。みんなそうだったんです。先祖に、ちょっと前に返るだけですよね。本来の姿かもしれない。それに返るだけなので、そういう忘れてしまった文化に返るだけなので、それをやっぱり市も、それから一般の住民の方も、こういう医療福祉関係者もみんなそれを共有して、それに向かって運動とかいうか、取り組みをやっていかないといけないんじゃないかなと思います。

今日は、もうそろそろ時間になりますけれども、一方では、そういった新しい病院が平成27年4月にできて、そういう救急医療、それから、がん、脳卒中、心臓病と、そういったものに対してしっかりとやっていただくということと、それは小児医療も含めてやっていただくことと、それから、今も出ましたような在宅医療、そして介護、そういうものが大きく2つの柱でしっかりとやっていただくような体制をつくっていただきたいと思い

ますし、この関係者はそれに人ごとではなくて、しっかりと自分たちの責任を果たしていないといけないのではないかと思っております。そんなところで終わりたいと思いませんけれども、あと、事務局のほうでよろしくをお願いします。

【事務局（加藤）】 いろいろご意見を頂戴いたしまして、先ほど東会長が言われましたとおり、我々、地域医療対策課と医療、福祉、介護の関係は包括も入ってやっておりますので、市のほうを中心に皆様のご協力をいただきまして、これからも進めてまいりたいというふうに思っております。

本日の会議はこれで終了させていただきますけど、委員の皆さん、本年度はいろいろお世話になりました、来年度もひとつよろしくお願ひしたいと思います。どうもありがとうございました。

— 了 —